



別海町長
曾根 興三

ておめでとうございます 願いいたします

新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまには、令和2年の新春を心健やかに迎えたいと心からお慶び申し上げます。

また、口頭より町政運営の推進に對しまして、温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私が、町長に就任してから4回目の新春を迎えました。就任以来、私の町政に對する熱い思いである「子育て世代への応援」「老後の安心」「活力ある産業の基盤構築」の3点において、積極的に取り組んでまいりました。

この間、町民の皆さまの心強いご理解と協力により各事業も順調に進んでおり、一定の成果を上げることができているのではないかと考えております。新年を迎え、改めて皆さまと共につくるふるさとづくりの決意を新たにしております。

さて、昨年を振り返りますと、全国的に台風を含めた自然災害が猛威を振るった年でありました。特に10月の台風19号は、降水量が観測史上1位を更新し、河川の決壊による洪水災害や土砂災害など大きな被害をもたらしました。本町でもこの影響で3大イベントの一つである西別川あきあじまつりが中止になったことがございます。

いつ起きてもおかしくない大災害に備えて、町民の防災に對する自助・共助の意識を育みながら、公助が連携し、あらゆる災害や危機に對処できる安全・安心なまちづくりを推進してまいります。

本町における地域資源を生かした産業の情勢では、まず主力である酪農畜産業は、町内の生乳生産量が昨年1月から10月末で対前年比111.29%の41万トン、生産額では1116.6%の約422億と、乳量、生産額ともに、農業者の自助努力はもちろんですが、生乳生産基盤の拡大による増産、国内における乳製品需要動向に伴い、堅調に推移した年でありました。

水産業では、大宗漁業である秋サケ定置網漁は、全体漁獲量としては昨年を上回ったものの、金額では比較的安値で推移したことから単価が

上がらなかった状況でしたが、主要魚種の一つであります、冬季ホタテ漁が漁獲量、価格ともに順調に推移しており、安堵しているところです。

また、観光・イベントでは、地域の関係団体と協働して実施している「尾岱沼えびまつり」や別海町産業祭など町内外から多くの方が来場し、別海町の食観光をPRできました。これからの時期は野付半島での新たな観光資源「永平線ウォーク」に多くの観光客が訪れるのを期待しています。

スポーツの話題としては、本町出身のスピードスケート選手の最近の活躍ぶりに喜んでおります。現在ワールドカップに尾岱沼出身の新濱立也選手と、現役復帰した西春別駅前出身の郷里里砂選手が出場しており好成績を収めています。また、それに引き続く若いスケーター達も世界の中で活躍しており、今後の躍進がますます楽しみです。

国内の状況に目を向けますと、昨年10月に実施された「北方四島における共同経済活動に係る観光パイロットツアー」は、平成28年12月の日口首脳会談に基づき実現となったツアーで、北方四島はもちろん、ツアー前半には根室管内5自治体を巡っていたりなど、本町のPRにもつながっています。

また、北方四島における共同経済活動に関して、観光や海産物の養殖など5項目で事業の具現化を目指すことが、すでに合意されています。パイロットツアーを含め官民調査団を北方領土に派遣するなど、共同経済活動の動きが加速してきています。隣接地域である本町におきましても、将来の平和条約締結に向けた取り組みとして積極的に関与してまいります。

さて、このような状況の中、昨年度から行政運営の総合的な指針である第7次別海町総合計画がスタートしました。地域懇談会をはじめ多くの方々の参画をいただきながら策定したこの計画を基に、さらに町民の声を反映し、行政の推進と質の高い行政サービスを提供するよう努めてまいります。

本計画の初年度となる令和元年度では、交流やボランティアの活動拠点を備えた生涯学習センターに着手しました。別海町の顔としてあらゆる活動の拠点となるよう福祉・商業教育・防災等と連携しながら整備を進めてまいります。

私はこの計画において「人がつながり未来につながる海と大地に夢があふれるまち」を心にも心に広がるふるさとづくりを、まわりの将来像に掲げました。

先人たちのためめ努力により築いた歴史ある文化や産業、自然といった地域資源を受け継ぎ「ふるさとづくり」に住民が「住み続けたい」と思えることを目標にしています。世代や環境を越えた、人と人との結びつきを深めるまちづくり、豊かで美しい自然を生かした産業を中心としたまちづくり、そしていつまでも生まれ育ったふるさと別海町を心の中に思い続けるまちづくり、そのような願いを込めました。

また、令和2年度からスタートする「第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を現在策定中です。本計画は、最上位計画である総合計画との整合性を図りつつ、特に全国的な課題である人口減少問題を発端とする諸問題に對するため、住民団体や「産官学・金労言」の各分野が連携して、基本目標、施策の基本的方向、具体的な施策などをまとめた内容となります。

町民、企業や関係団体等と今後町が目指すべき方向、目標を共有し、暮らしやすいまち、住み続けたいまちづくりの推進に取り組めます。

この豊かなふるさと別海町を次世代へしっかりと引き継いでいくために「みんなであつなぐ 実りある ふるさと 共創プラン」を合言葉に、町民の参画・協働の下、行政が一体となって進めてまいります。どうぞ、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、新しい一年が、町民の皆さまにとりまして、希望に満ち、健康で笑顔あふれる年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



別海町議会議長

西原 浩

町民の皆さま あけまして 本年もよろしくお

あけましておめでとございます。町民の皆さまにおかれましては、健やかに清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃から町議会活動への温かいご支援とご協力を、議会を代表しまして厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月の統一地方選挙前半の北海道知事選挙では、新しい北海道の舵取り役として、30代という若さの鈴木直道知事が誕生いたしました。

また、後半の別海町議会議員選挙では、新人3名を含む我々16名の議員が町民の代表として選出され、心新たにいたしました。

5月1日には、30年にわたり歴史を刻んだ平成が「令和」に改元されましたが、時代の変遷に立ち会えたことはこの上ない喜びであったと感じているところでです。

スポーツにおいても、ラグビーワールドカップでは、日本代表の活躍に一喜一憂し、11月に入ってからスピードスケートワールドカップでは、本町出身の新濱立也選手や現役復帰した郷里里砂選手が好成績を収められたことに心踊らされ、北京オリンピックに向けて更なる大きな飛躍に期待を募らせるものであります。

一方、自然災害に目を向けますと、9月、10月に相次ぎ上陸した台風15号、19号は、千葉県を中心に関東地方の多くの地域に、暴風や停電による甚大な被害をもたらしました。多数の河川の氾濫による大規模な浸水の状況を見るにつけ、改めて自然の猛威に驚愕するばかりであります。

さて、我が国の経済は、世界経済の緩やかな回復を背景に、アベノミクスの三本の矢による経済財政政策により企業収益が過去最高となる中で、雇用・所得環境が改善し、所得の増加が消費や投資の拡大につながるという「経済の好循環」が着実に回りつつあると言われています。

昨年10月に消費税の税率が8%から10%に引き上げられた影響で、経済の落ち込みが考えられますが、この財源が今後の社会保障の充実、教育負担の軽減、子育て支援の充実に充てられることを期待しているところです。

また、年末には、日米の新たな貿易協定が本年1月に協定を発効することで合意となりました。農産品がTPP並みに引き下げられることにより、農業者に大きな影響が出ることは必至の状況となります。国も農家の不安解消に向け、クラスター事業の採択条件緩和などの手を打っていますが、先行きは不安と言わざるを得ません。

そのような中、地方においては、依然として人口減少に歯止めが掛からない状況下において、医療・介護・子育て分野における地方の責任は拡大し、社会保障、教育、社会資本整備など、住民に身近な行政サービスに関連する経費は、年々膨らむ傾向にあります。

また、頻発する災害への備えや人口減少社会における長期的な視点を踏まえた取り組みなど、厳しい財政状況の中で必要な住民サービスを安定的に提供していくため、新たな発想での創造的な施策が求められています。

本町においても、あらゆる諸課題に立ち向かうため、昨年3月に策定した「第7次別海町総合計画」を基本に各種施策を構築し、それらを推し進めていくことが期待されます。議会としても住みよいまちづくりを実現するため、議会の果たすべき役割と責任を自覚し、皆さまの声を町政に反映し、別海町が発展を続け、住んで良かったと実感できるまちづくりに議員一同全力で取り組みを進めていく所存であります。

別海町議会では、改選前からの議論のもと、昨年6月「第2期別海町議会活性化計画」を策定しました。この計画は「別海町議会基本条例」の制定と「委員会の調査力及び政策力の向

上」の2つを重点計画に掲げ「わかりやすい議会、開かれた議会、行動する議会、結果を出す議会」の4つを基本方針に据えらるとともに、別海町自治基本条例の理念である「町民参加」と「情報共有」を基本理念としています。

この計画に沿って、本年度は、10名の町民の方を議会モニターとして委嘱し、議会の活動に対し率直な提言をいただくこととしました。

また、一般質問を政策議論の資源にすることを目的として、9月と12月定例会の前に地方自治や議会の研究を行っている大学の教授など2名の方に講師をお願いし、一般質問の研修を行いました。研修を重ねたことにより、町民の皆さまに見える形で政策議論をすることが、町政の発展と住民福祉の増進に寄与するという考えに至り、各定例会では熱心な議論が展開されたところです。

加えて、昨年11月に町内3会場で実施した地域めぐり懇談会や別海高校との意見交換では、町政や議会に対する思いを一人一人から直接聞くことができました。寄せられましたご意見等は、十分に検討して議会運営に反映させていくこととしています。

今後、「第2期別海町議会活性化計画」を基本に、議員の争点提起を議会の政策資源に転換する仕組みを構築し、2元代表制としての議会の機能を発揮し、持続可能なまちづくりを担う政策議会の実現を目指したいと考えています。

別海町議会として、住民の皆さまと共に歩む議会を目指し、議員全員で力を合わせて取り組んでまいりますので、どうか本年も、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

町民の皆さまにとりまして、令和2年がより輝かしい実りのある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。